郡山市立小原田中学校
学校だより
No.21

手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒

令和３年７月２０日（火）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長　熊 坂　　洋

日本人が共有すべき夏休みの宿題、そして未来をより良きものにするために…

昭和２０年４月１２日、郡山市での第二次世界大戦の被害は起こった。その日は快晴で無風、春らしい気候だった。私の祖父は当時１４歳、郡山市から１２キロもの道のりを汽車に乗って、三春町にある田村旧制中学校に通っていた。当然だが、今日Ｂ２９爆撃機が来襲してくることなど知らない。いつもどおり学校に行って、いつもどおり授業を受けていた。しかし、その授業中、突然空襲警報が鳴り、先生の指示に従って急いで校舎の近くにある山に掘った防空壕に入った。すると太平洋側の上空からキラキラ光る飛行機の編隊がやってきた。これがＢ２９だ。Ｂ２９が祖父達の上空を通過した後、５分もたたないうちにドドーンという地響きが聞こえてきた。この地響きによって校舎がガタガタと揺れ、ガラスを叩くような音がしたらしい。Ｂ２９の爆撃の編隊は銀色のピカピカした鳥が飛ぶように見えたという。中でも一番被害を受けたのは日東紡富久山工場、保土ヶ谷化学工場だ。１１時１５分から１時間に渡り二つの工場を襲撃、爆弾を投下し、全体で死者５００名を超え、負傷者は１０００名。その他、郡山駅前には爆弾だけでなく、※焼夷弾（しょういだん）も落とした。そのせいで駅前は焼け野原となった。その後、空襲警報が解除になり、１３時過ぎ学校の先生より「駅が被害を受け、汽車が不通になったため、歩いて気を付けて帰れ。」と指示が出た。祖父達は１２キロもの道のりを上級生数名と歩いて帰った。その途中に日東紡富久山工場があり、生々しい悲惨な情景を目の当たりにした。爆風で飛ばされた死体がごろごろと散らばっていたという。

また、これらの工場では学徒動員で中学生や高校生が働いてた。この４月１２日の郡山空襲では、保土ケ谷化学工場だけでも学生２６名の尊い命が奪われた。祖父は痛ましい光景だったと言っていた。

爆撃を受ける日東紡富久山工場

※焼夷弾（しょういだん）：目標を物理的に破壊するのではなく、攻撃対象を焼き払うために使用された兵器

十数年前のものですが、ある中学生が戦争体験を祖父に聞き取った内容をまとめた作文です。

第二次世界大戦（太平洋戦争）の終戦から今年で７６年が経過しました。戦争を二度と起こさないためには、大切な人の命を突然理不尽に奪われた悲しみを経験した人々が、次の世代に伝え、共有していくことが重要であり、今を生きる我々の責務だと思います。伝えることにより、単に「何人が犠牲になった」という数字ではなく、一人一人の大切な「命」として実感することができ、同じような不条理な死を二度と出すまいと思えるようになります。平和な社会はそうやってつくられるのです。しかしながら、戦後７６年が経過し、戦争の惨状を語り伝える“語り部”の方々の高齢化が深刻で、これまで必死に戦争を語り続けてきた人達が次々と亡くなっているという現状があります。夏休み中には、広島原爆投下の８月６日、長崎原爆投下の８月９日、そして終戦記念日の８月１５日と戦争に関係の深い日が、幾日もあります。終戦から７６年経った今、「死の恐怖」を感じることなく、日常生活を送ることができ、私たちは安全な中で「生きている」ことが当たり前になっています。そのため私達は、「生きる」とはどういうことなのか、意識することのないまま、毎日を過ごしているように思います。この郡山市でも多くの犠牲者を出した「戦争」という出来事について、そして「平和」について、じっくり向き合って考えること、これが日本人が共有しなければならない“夏休みの宿題”であると思います。戦争に関するニュース・テレビ番組・新聞記事・本などから考えてみるなど、是非この“夏休みの課題”に取り組んでください。

長崎平和祈念像

この夏、昨年度は実施されなかった郡山市長崎派遣事業に２年松崎結さんがZoomで参加します。戦争の若き語り部としての報告を期待しています。

そして、戦争という人間の愚かな行為やその戦争によって未来を奪われた多くの若者がいたという過去を踏まえ、１学期が終了するこの節目に、「未来をより良きものにするためには…」という話を最後にします。
未来を変えるにはどうしたらいいか。未来をより良きものにするためにはどうしたらいいか。

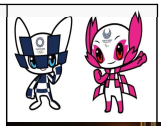
「The future is now.（未来とは、今である。）」

これは、アメリカの文化人類学者マーガレット・ミード氏の言葉です。
タイムマシンを持たない我々は、今この瞬間しか生きることができません。つまり、未来は今を積み重ねることで訪れる時間です。今現在が未来に繋がっています。言い換えれば、今現在を変えることで未来も変わるとも言えます。今すべきことをせずに、「そのうち」とか「後で」とか言い訳をしていい加減に過ごしていれば、そのいい加減さの延長線にある未来もいい加減なものになってしまいます。未来をより良きものにするためには、“今”を大切にするということです。未来をジグソーパズルにたとえると、今現在が一つ一つのピースのようなものです。「今一番心を傾けて努力しなければならないことは何か」をはっきりとさせながら、ジグソーパズルのピースとしての“今”を一つ一つ丁寧に組み合わせていきましょう。

長期休業中においても、社会、そして学校のルール・きまりの上にあることを忘れずに、決して後々の自分や他の人の心に傷をつけることがないようにしてほしいと思います。併せて、新型コロナウイルス感染症対策にも引き続き気を緩めず取り組んでいくこともここで確認しておきます。全校生、全職員一人一人が「命の重さ」を胸に刻み、全校体制で事故「０」という言葉を肝に銘じながら夏休みを乗り切りましょう。

～第一学期終業式 校長講話より～

コロナ渦の中でのオリ・パラ開催



この夏休みは、コロナ渦の中でのオリンピック・パラリンピック自国開催という特別な休みにもなります。開催に至るまでには紆余曲折があり、未だに不安要素もあります。ただ、無観客などの制限された中にあっても、様々なドラマが繰り広げられると思います。テレビ観戦になりますが、アスリート達の戦う姿をしっかりと目に焼き付けていきたい。そして、この東京オリ・パラを後世に伝えていきたいと思います。

保護者の皆様へ　夏休みを迎えるにあたって…

保護者の皆様におかれましては、１学期の教育活動に対するご理解とご支援に感謝いたします。今年度もコロナ渦の中での学校運営となっており、未だに本来の姿には戻れない状況が続いておりますが、昨年度にはできなかったことが少しずつできるようになってきたのも事実です。まだまだ油断はできませんが、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、教育活動との両立を図っていきたいと考えております。そして、この夏休みは、コロナ渦の中でのオリ・パラ開催という特別な休みでもあり、アスリート達の活躍等をご家庭の中で共有していただきたいと思います。併せて、私の出した“夏休みの宿題”についても、是非ご家庭で話題にしていただければ幸いです。お子さんにとって是非とも“何かを得ることができた夏休み”になるよう、ご指導・ご助言をお願いいたします。

- ◆ 交通事故、水難事故、非行事故等…あらゆる事故防止のためにご指導をお願いします。また、お子さんの動向や交友関係の把握、スマホ・携帯等の情報通信機器の使用状況についても気配りをお願いします。
- ◆ 家庭内における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と継続をお願いします。
- ◆ 毎日の学習時間の確保と部活動への積極的参加に対するご支援をお願いします。部活動につきましては、休業期間中のため、上限週５日の実施で計画を立てています。
- ◆ 通知票については、各教科の評定が気になるところですが、学校からの『お知らせ』に着目していただきたいと思います。担任の思いや願いが込められています。頑張ったこと、成長した点、改善点などが記載されております。それらを受けての励ましをお願いします。
- ◆ １学期は中止としました授業参観を９月10日（金）に実施いたします。先日通知を配付しましたが、学級担任の授業を各学年時間差をつけて実施します。詳しくは通知をご覧ください。

◎ この夏休み期間中、何かありましたら、担任、学校等にご連絡ください。